



くすのき



学校のシンボル
くすの木

令和7年8月27日

さいたま市立土合小学校

教頭 葛西 耕輔

「戦後80年—— 平和のバトンを未来へ」

39日間の夏休みが過ぎ、子どもたちの元気な声が学校に戻りました。

夏休みの思い出を嬉々として話す姿を見て、よい夏休みを過ごせたのだなとこちらまで嬉しい気持ちになりました。しかし、この「楽しい時間を過ごせる」ということが当たり前ではないのだとテレビや新聞を見て気づかされました。それは、今年が戦後80年という節目だという内容でした。

2025年、私たちは戦後80年という大きな節目を迎えました。1945年に第二次世界大戦が終わってから、日本は戦争をせず平和な社会を築いてきました。80年という年月はとても長く、戦争を体験した人の多くが高齢になり、子どもたちが直接話を聞ける機会も少なくなってきました。

戦争とは、国と国との争いだけでなく人々の命や暮らし、心までも深く傷つけるものです。空襲で家を失った人、家族を亡くした人、食べ物がなくて苦しんだ人——そんな多くの悲しみが、かつてこの国にありました。今、私たちが毎日学校に通い、友だちと遊び、家族と安心して暮らせるのは、平和があるからこそです。

でも、平和は「当たり前」ではありません。多くの人たちが「二度と戦争を起こしてはいけない」と願い、努力してきたからこそ今の平和があります。だからこそ、私たちはその思いを受け取り次の世代へとつないでいく責任があります。

小学生にとって、「戦争」や「平和」は少し遠い話に感じるかもしれません。でも、身近なところにも平和を守るヒントがあります。たとえば、友だちとけんかをしたときに相手の気持ちを考えて話し合うこと。困っている人に「大丈夫？」と声をかけること。そうした小さな思いやりや行動が、平和をつくる第一歩なのです。

保護者の皆さまにも、ぜひ御家庭で「平和ってなんだろう？」という問いをお子さんと一緒に考えていただけたらと思います。戦争体験者の話を聞いたり、平和に関する本を読んだり、家族で話し合うことも子どもたちの心に深く残る学びになります。

戦後80年という節目は、過去をふり返るだけでなく、これからの未来をどう生きていくかを考える大切な機会です。私たち一人ひとりが「平和のバトン」をしっかりと受け取り、次の世代へとつないでいきましょう。